



コミュニケーション分断の世界で

盛岡YMCAに集う関係者の皆さま、あけましておめでとうございます。年頭に当たって、一言、所感を申し上げます。

いささか、唐突な書き出しとなりますが、井上ひさしの作品に『國語元年』という戯曲があります。かつて、ドラマ化されて、NHKで放映されたこともありますので、ご記憶されている方もおありかと思えます。この戯曲の主人公は、南郷清之輔という明治新政府の文部官僚で、政府から「全国統一話し言葉」の制定を下命された人物という役柄です。当時の日本は、長く続いた幕藩体制の影響もあり、言葉といえば、東京も含めて一部の地域でしか通じないお国言葉ばかりでした。しかし、それは欧米列強に比肩し得る近代国家、とりわけ近代的な軍隊の創設を目指す政府にとって、はなはだ不都合な状況でした。戦場において、銘々が異国語ほどに異なるお国言葉で話していたのではコミュニケーションが成り立たず、軍隊は機能しません。そこで、主人公に重大任務が与えられたというわけです。劇中では、様々な地方の出身で、話し言葉も異なる親族や奉公人、それに居候学者や強盗犯などが、統一国語をめぐる抱腹絶倒の大騒動を展開することになります。多様なお国言葉や文明開化語なる急ごしらえのハイブリッド語が飛び交い交差する中で言葉の本質や捉えどころのなさが浮かび上がってきます。いつの間にか、作者の研ぎ澄まされた言語感覚の世界に引きずり込まれる不思議な作品です。

さて、この作品から連想するものに創世記第11章に描かれた「バベルの塔」の説話があります。古代の世界も国や地域によって多様な言語や方言が使用されていたことは想像に難くなく、なぜ、言葉がばらばらになったのかという問いに答える起源譚として伝承された物語であったと思われます。創世記の編者は、この説話を「人間の神からの離脱」「自己絶対化」の文脈に位置付け、神の裁きの結果、コミュニケーションが分断された存在として人間を描いています。しかし、ここに描かれたコミュニケーションの分断は、単に古代世界の出来事にとどまるものではありません。むしろ、グローバル化が進み、飛躍的に人口移動や情報流通が進んだ現代においてこそ、私たちの上に重くのしかかっている現象と思われる。

私たちの世界では、多くの国家や国民が自国の利益のみを追求し、自身の優位性を声高に主張します。私たちがそのような状況の中で、他者の姿が見えず、声を聴くこともできない分け隔てられた世界の住人となってしまっているのではないかと思うのです。

私たちが集うYMCAは、権力からも経済力からも縁遠い存在ですが、言語や民族、社会階層を越えて、人と人のコミュニケーションを築き上げようとしている運動体です。

昨年、全国のYMCAがブランディングということで、ロゴマークや標語を統一し、連帯と一致を再確認したところですが、ブランディングの最大の意義は、全国のYMCAが「内なる共通言語」を獲得し、それを市民社会に広く発信したという点にあります。しかも、その共通言語は、それまで各地のYMCAがあたかも方言のように語り継いできた独自の理念や目標を打ち消すものとしてではなく、むしろ、それらを包摂するものとして表白されたものと考えられます。

盛岡YMCAは、長年、「きみでいいんだよ」というキャッチフレーズを掲げ、互いの存在を肯定し合い、必要とするすべての人に居場所を提供できる組織となることを目指してまいりました。人々が分断された現代社会において、そうした方向性は一層重要さを増しているように思われます。それを追求していくことは、全国で統一された標語の実現にとっても有効なアプローチとなるに違いありません。本年も盛岡YMCAは、関わるすべての人の個性が豊かに発揮され、互いにエンパワーされるようなプログラムを進めてまいりたいと思います。皆様の一層のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

盛岡YMCA 理事長
うおずみ ひであき
魚住 英昭



ファミリークリスマス

12月10日(日)、仁王地区活動センターにて、今年も親子参加型プログラム「ファミリークリスマス」を盛大に行いました。

今年は「親子の絆」をコンセプトに、手軽に雰囲気満載のクリスマスグッズを作ったり、リーダー手作りのゲームで楽しんだり、親子で写真を撮れるブースがあったりと会場はまるで遊園地のような雰囲気。クラフトブースには時折、子ども以上に真剣にグッズを作る保護者の姿も見られ、まるで、「大人の本気」を知らしめているのではないかというアーティストチックなグッズを製作された方もいらっしゃいました。ゲームブースでは子どもたちも保護者の方も満面の笑みで楽しんで、その笑顔のまま写真ブースでキラキラな写真撮影。どのブースも目移りするようなクリスマスだらけの素敵な時間を過ごせるスペースでした。

ファミリークリスマスが始まって1時間後・・・ホールの方ではクリスマスソングと、リーダー

達の「みんな集まってー!」という声が聞こえてきたので覗いてみると、ホールでは家族対抗のゲームやみんなで歌って踊り笑いが絶えない時間を過ごし、あわてんぼうのサンタクロースが登場したりとクリスマス会の盛り上がりは最高潮となりました。

今年で3回目となるファミリークリスマスですが1回目・2回目が大好評だったために、今年ももっといいモノにと、リーダー・スタッフが1か月前から準備をはじめました。クラフト・ゲームの内容はもちろんのこと、どうしたら保護者と子どもと一緒に参加できるか等リーダー・スタッフが意見を出し合いながら工夫をしてきました。もちろん、全部がうまくいったわけではありません。しかし、盛岡YMCAのリーダー達は、うまくいかなかったとわかっていながらこそ、また話し合い、チャレンジできる環境をつくりあげて、前回よりも今回、今回よりも次回とステップアップできるのです。

来年も参加する家族全員の最高の笑顔のためにリーダー達はもっと最高の笑顔で活動を続けていきます。そして来年はもっともっと親子の笑顔が溢れる素敵な空間をつくりあげていきたいと強く感じました。



盛岡YMCA 東森 聡 (タモリリーダー)

エンジョイ・ジュニアスキーキャンプ

こんにちは!エンジョイ・ジュニアスキーキャンプのメインを務めさせていただきました、チーズです。12月25日～29日がエンジョイスキーキャンプ、26日～29日がジュニアスキーキャンプという日程で過ごしました。エンジョイ組1日目、少し天候が心配されていましたが、そんなのはお構いなしと元気いっぱいの子もたちが続々と集まってきました。スキー場に到着してからは、「早くスキーしたい!」とやる気満々の子どもたち。全員で大きな声を出し体操をしてスキーレッスンが始まりました。最終日のワッペンテストに向けてそれぞれリーダーと一緒に頑張ります。この日はあまりたくさん滑ることができなかったけど、次の日の楽しみに変えて1日目を終えました。2日目からはジュニア組が合流!総勢65名。このメンバーで最後まで一緒にキャンプを過ごします。ジュニア組も合流しスキー場にはさらに大きな声が響き渡っていました。スキーレッスン中はいくら寒くても、「転んだ!」「早く滑りたい!」と子どもたちから思い思いの声がたくさん飛び交います。



ととても元気いっぱい。転んでしまった子がいたら、その友だちを応援してくれたり助けに行ってくれたりしてくれていました。あたりまえのことのように思いますが、このあたりまえができる子どもたちは本当にすごいなと感じます。3日目は子どもたち同士の関わりも垣間見ることができ、各グループの結束力が高まっているように思えました。そして最終日を迎えていよいよワッペンテスト。ドキドキがこっちにまで伝わってきて子どもたちが以上に緊張しましたが、一人ひとり全力で滑りることができ、達成感が満ち溢れていました。

キャンプ中は、スキーだけではなく、みんなで入るお風呂やごはん、楽しい時間がたくさんありましたが、ホテルでのルール、荷物の整理整頓など守らなくてはいけないこともたくさんあり、もしかしたら楽しくないと感じる時間もあったかもしれません。その分子どもたちは自分と向き合った場面がたくさんあるはずです。それぞれがそれぞれの「思い出」を持ち帰ってくれたことと思います。スキーキャンプはスキーキャンプならではの楽しさがあり、たくさん経験できるそんなキャンプ。たくさんの思い出が詰まった楽しいキャンプになりました!ありがとうございました。

盛岡大学3年
小野寺 保乃香
(チーズリーダー)



仙台YMCA スキーキャンプ

盛岡YMCAがキャンプをしている一方、お隣の仙台YMCAのスキーキャンプに盛岡から7名が参加してきました。日程は盛岡で行われているスキーキャンプと同じで、12月26日～29日までの3泊4日が仙台ダイナミックスキーキャンプ、12月27日～29日までが仙台ジュニアスキーキャンプでした。

会場はなんと安比高原スキー場。お隣の仙台からも岩手にキャンプへ来ていました。ダイナミックスキーキャンプでは2日目のナイトプログラムを、ジュニアスキーキャンプでは帰りの仙台までのバスプロを盛岡からのリーダーが担当し、仙台の良さと盛岡の良さが合った楽しいキャンプになったと思います。キャンプの前日に顔を合わせた盛岡と仙台のリーダーでしたが、最終日には一緒にバスの中で盛り上がり、キャンプ中も会話が増え、来てくれた子どもたちとそれぞれどちらかだけでは作り出すことのできない雰囲気でのキャンプをすることができました。東北には盛岡と仙台しかYMCAがありません。しかし、200kmも離れてしまっています。建物自体の距離を近づけることは不可能ですが、同じ東北にあるYMCAとして今後も、ものではなく見えないものをつながりをしっかり築き、互いに刺激しあい、目の前の子どもたちのことを考えた良い活動ができるよう手を取り合っていきたいと思いました。



盛岡YMCA
向平 悟
(ジーンズリーダー)



ダイナミックスキーキャンプ

1月6日から2泊3日、安比高原スキー場にてダイナミックスキーキャンプに行ってきました!20名の子ども達と8名のリーダーが集まって行われたこのキャンプ、たくさんの思い出が出来ました。ダイナミックスキーキャンプ、もちろんこのキャンプの醍醐味はスキーレッスン&ワッペンテスト。3日目に行われるワッペンテストに向けて、各グループに別れて楽しく安全にレッスンを行いました。初級グループは初めてスキーをする子も2日目にはリフトに乗って滑って降りてくることが出来ました。上級グループは滑りの質を高めつつ、上級コースにも挑戦しました。それぞれが目標に向かって努力する姿が見られ、有意義なスキーレッスンになったと思います。



スキーキャンプが楽しいのは、スキーだけじゃないところ!!
スキーレッスンが終わるとみんなで広い温泉に入ったり、豪華なバイキングをお腹いっぱい食べたり、夜にみんなで集まってナイトプログラムをしたり、お部屋に戻ってお友だちと遊んだり... 普段の生活では味わえない楽しさがたくさん詰まった3日間でした。

1日目のナイトプログラムでは、生活グループごとに福袋をゲットすべくミニゲーム大会に奮闘しました。ミニゲームに勝つとあみだくじに1本横線を足せるというルールの下、福袋をゲットするためにグループ間の協力が見られました。

2日目のナイトプログラムは、「目指せ名探偵!ダイナミッククイズ大会」を行いました。様々な種類のクイズに答えながらポイントをゲットしていくこのゲームは1日目と違い個人戦。笑顔でいっぱい時間となりました。今回のスキーキャンプは全員が元気に笑顔で3日間を過ごすことができました。キャンプ中は、誰かのために待ってあげたり、誰かのために譲ったり、誰かのためになにかをしったり、やりたいことが全てできたわけではないと思います。しかし、みんなの優しさがあったからこそ「みんなで過ごすキャンプ」が笑顔で終われるものとなったと思います。とても楽しい3日間をありがとうございました。



岩手大学3年
菊池望(サソリリーダー)

名古屋 YMCA スキーキャンプ

こんにちは。宮澤秋彦です。リーダー名はシュリンプです。

今回一月六日から一月八日にかけて、名古屋YMCAの鹿島槍チャレンジスキーキャンプに行ってきました。

このキャンプは、二泊三日のスキーキャンプで、年代は、小学一年生から小学六年生で、スキー初心者から上級者の子供達が参加するキャンプでした。子供のなかには、初めてキャンプに参加した子供もいて、普段と違った環境で少し緊張気味でしたが、時間が経つにつれ、周りの子供達と打ち解けていき、子供自身の考えをしっかりと持ち、伝えることもでき、他の子を思いやる様子も見られ、最後にはキャンプが終わってしまうのを渋るくらい楽しめていた様子でした。私は、昨年末、盛岡YMCAのエンジョイ・ジュニアスキーキャンプに参加し、主観的と客観的、両方の立場から見たときにグループワークが活性化させていることと、子供一人一人をしっかりと理解することの均衡を保つことと、年齢が違う子供達全員を一つの遊びで結びつけることが反省としてあり、これらを重視しながら今回のキャンプに挑みました。先方の課題のために、私は、グループでまとまってすぐグループの目標を決め、グループ全員が目標意識を持つようにしました。反省としては、低学年の子供の意識を内から外へ向けることが十分でなかったことと、

客観的に見たときのグループワークの形を自分のなかで、イメージしきれていなかったことです。

もう一つの課題のためには、自分から様々な、子供全員が参加できる遊びを提案しました。うまくいき楽しめたこともあったのですが、子供同士の関係を作る遊びとしては、不十分だったと思います。最後に、私自身は、このキャンプを純粋に楽しむだけでなく、初めてYMCAの活動に参加した時の楽しさを再び実感することができ、また、今まで盛岡YMCAの活動に参加し身につけた私なりの、子供一人一人とのふれ合い方や、子供同士のふれ合いを、普段とは違う環境で実践することができ、とてもいい経験が出来ました。この経験を元にこれからの活動を、もっと高い意識、近い関係で子供とふれあうことを意識し、もっともっと楽しんでいきたいです。最後に、こんな貴重な経験をさせていただきありがとうございました。



岩手大学1年
宮澤秋彦(シュリンプリーダー)

「あの鐘を鳴らすのはあなた」

紅白と言えば和田アキ子、和田アキ子と言えば「あの鐘を鳴らすのはあなた」。和田は、1972年、この曲で第14回日本レコード大賞最優秀歌唱賞を受賞した。

当時、レコード大賞のテレビ放送は大晦日で紅白に勝るともおとらない年末の大イベントだった。

受賞の瞬間、沢田研二を引き連れて、号泣しながら壇上にあがり、顔をぐしゃぐしゃにしながらかっていた姿を小学6年生の僕は食い入るように観ていた。

昨年、40年連続の紅白出場が途絶えた和田は、前日30日に行われたレコード大賞のイベントで特別賞を受賞した。60代後半、かつての迫力のある声量はどこかにいってしまっていたし、高音部を歌うのは相当しんどそうだった。しかし、一つひとつの歌詞をかみしめながら丁寧に歌い上げている姿がとても印象的だった。

この曲はずっと、雰囲気だけで聞いてきたのだが、昭和を代表する天才作詞家、阿久悠が時代から切り取った言葉は45年の時を超えて僕の心に染み込んできた。

あなたに逢えてよかった
あなたには希望の匂いがする
つまずいて 傷ついて泣き叫んでも
さわやかな希望の匂いがする

あなたに逢えてよかった
愛し合う心が戻って来る
やさしさや いたわりや ふれあうことを
信じたい心が戻って来る

人はみな 孤独の中
あの鐘を鳴らすのはあなた
町は今 眠りの中
あの鐘を鳴らすのはあなた
人はみな悩みの中
あの鐘を鳴らすのはあなた

2018年、新しい年が始まった。混迷を深める時代の中で、あなたとはいったい誰を指すのだろうか？ もしかしたら、様々な出会いや失敗を経験し、傷つき、気づくことのできた、自分自身ではないだろうか？ あの鐘を鳴らすのは他の誰でもない“わたし”であるのだ。

「主よ、わたしをしてなんじの平和の使者としまえ。

憎しみのあるところに愛の種をまき
危害に許しを、不和に一致を、疑いに信仰を
絶望に希望を、暗黒に光を、
悲しみに喜びをもたらす者となしたまえ」

(聖フランチェスコの祈り)

盛岡YMCA総主事 濱塚有史

ネパールでしろくまも考えた②

「ティハール」

ネパール人にとってはお祭り好き！年がら年中何かのお祭りがあるとか…。そして、私たちがネパールを訪れたときもちょうど「ティハール」というお祭りが始まった。「ティハール」はネパール全土で行われる、2番目に大きいお祭り。街ではどこもかしこもカラフルな電飾で光り輝き(むしろギラついている)、家や店の玄関は主にマリーゴールドなどの生花で作られた飾りなどで鮮やかに装飾されていた。故に別名「光の祭り」と呼ばれる。

ティハールは5日間続き、1日毎に意味がある。地域によって多少違いはあるが大半は1日目カラスにお祈りする日。

2日目は犬にお祈りする日。

3日目は「ラクシュミ」という富や財産を司るヒンドゥ教の女神を祀る日。4日目は牛を敬い、お祈りする日。



5日目は姉妹が兄弟の長生きと健康を祈る日となっている。(具体的に調べるとより面白い。興味のある方は調べてみて欲しい！) ティハールの最中は基本的に仕事も学校も休みになる。実家を離れて働く人も嫁いだ人も、バスで何時間もかけて家へ帰る。他国に出稼ぎに行っている人も帰ってくる。そして家族で過ごすのである。日本で言うお盆や正月みたいなものだ。ただ、このように家族で過ごすような祭りが多く、ネパール人にとっては家族との時間

を大切にしているのだと感じた。

そして、お祭りというものをとても大事にしている。日本にも昔からたくさんのお祭りがあり、それぞれ様々な意味が込められている。騒いで、屋台でいろいろなものを買って、「ああ、楽しかった」で終わるのではなく、どんな意味があって行われているのかを少し考えてみるのもいいかもしれない。そこにはずっと昔から祭りに込められている思いがある。その思いがしっかりと受け継がれていくように。

盛岡YMCA 家村 知佳(しろくまりーダー)

表紙の写真から



年末開催された学生リーダーのスキートレーニング。

今年も盛岡Yは、若い力全開です!!